

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立島根中学校）

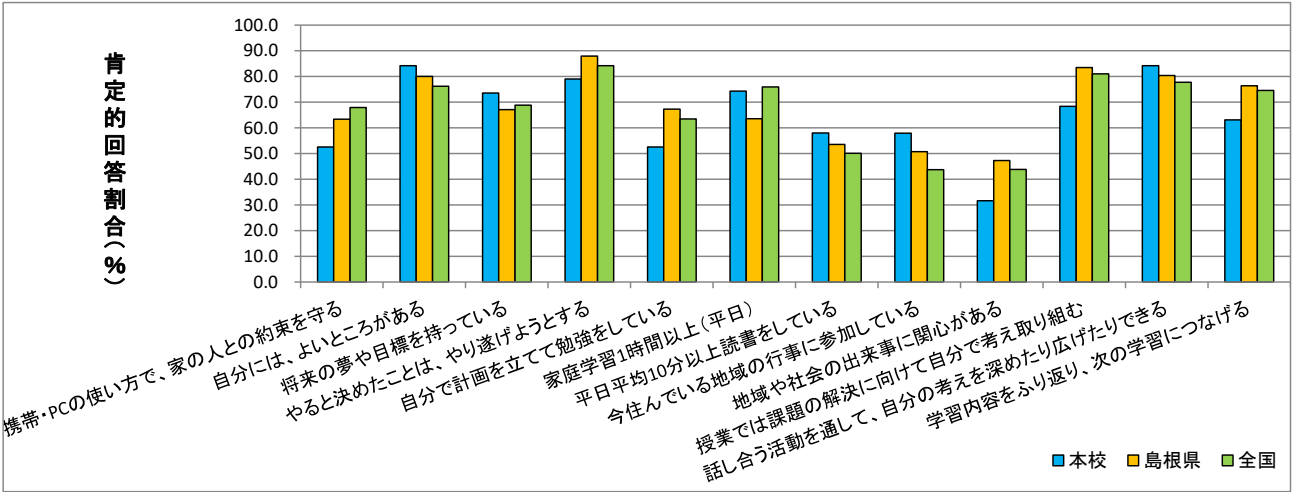
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○「話すこと、聞くこと」の領域の正答率が高い。 ○国語への関心・意欲が比較的高い。 ●長い文章で説明することや、自分の考えをまとめ、伝えることが苦手である。	・話し合いや発表をしやすいように、テーマや型を限定した話し合いの機会を増やす。
数学	○「図形」「関数」の領域の基礎的な事項の正答率が高い。 ●理由の説明や読み取った情報の表現などの記述を苦手としている生徒が多く、記述形式の問題の無回答率が比較的高い。	・理由を説明したり、読み取った情報を表現したりする機会を増やし、自分の考えを伝える取組を続ける。 ・学習方法を指導する機会を増やし、正確に処理する技能を高める。

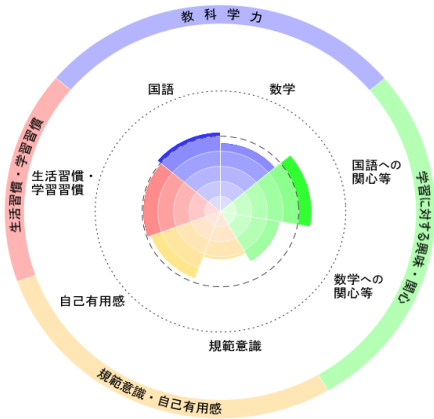
(2) 生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
	○「自己肯定感」「将来の夢や目標」「家庭学習1時間以上」「話し合う活動」や「国語の勉強が好き」「国語の授業の内容がよくわかる」などについて肯定的な回答の割合が高い。 ●「携帯・PCの使い方の約束を守る」「計画的な家庭学習をしている」「地域や社会の出来事に関心がある」について肯定的な回答の割合が低い。	・家庭生活や携帯・PCの使い方について振り返る機会を増やす。 ・家庭学習の内容や方法、計画の立て方など、取組について振り返る機会を増やす。 ・授業で、地域や社会に関連した内容への取組や地域と関わりをもつ活動を取り入れる。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・島中スタイル(ユニバーサルデザイン)の視点を取り入れたわかりやすい授業を継続して行う。
- ・校内研究部アンケート、学校評価をもとに、学年部ごとに課題を見つけ、その改善を図る取組を計画する。
- ・身に付けさせたい力について教職員で共通理解を図り、グループでのコミュニケーションスキルの指導を継続し、充実させる。

【受検者数】 19 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。